

議題(1) 「こどもまんなか熊本」の実現に向けた連携強化について

項目	現状(これまでの取組、課題等)
<p>(1) 「こどもまんなか熊本」の実現に向けた連携強化について</p>	<p>1 現状・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年の全国の出生数は、統計開始以来初の80万人割れとなり、本県の出生数も11,875人と年々減少している状況。</li> <li>・県内出生数の1/2を占め、県内市町村の中で最も人口が多い熊本市の出生数は5,792人で、ここ10年で約1,300人も減少しており、少子化が加速している状況。</li> <li>・今年6月に国が示した「こども未来戦略方針」によると、少子化対策と経済成長の実現は、2030年までがラストチャンスであり、国の持てる力を総動員し、不退転の決意で取り組むとされている。</li> <li>・本県においても、国が4月に発足させたこども家庭庁の動きに呼応する形で、「こどもまんなか熊本」の実現を目指し、待ったなしの少子化問題に取り組んでいくため、できることから始めている状況。</li> </ul> <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもまんなか熊本」の実現に向けては、県だけでなく直接住民にサービスを提供し、より県民に身近な市町村との連携が必要であり、特に政令市である熊本市と一緒に取り組んでいくことが重要。</li> <li>・また、県や市町村だけでなく、県民や企業、関係団体等が一体となって、こども・子育て世代の視点に立ち、その最善の利益を第一に考えながらそれぞれができることを始めるといった、機運の醸成から始める必要あり。</li> </ul> <p>3 現在の取組み状況</p> <p>■熊本県</p> <p>(1) 知事定例記者会見における「こどもまんなか熊本」の取組みについて発表(5/19)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知事、くまモンによる「こどもまんなか応援サポーター」就任宣言。</li> </ul> <p>(2) 「こどもまんなか熊本」キックオフトップセミナーの開催(5/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県全体で「こどもまんなか」の視点を踏まえた施策の充実を図り、地方創生・少子化対策の取組みを加速化していく契機となるよう、市町村長や経済団体の長、庁内幹部職員等を対象としたセミナーを開催。(約200人参加)</li> </ul> <p>(3) 「こどもまんなか熊本」プロジェクトチーム、こどもまんなか応援団の設置(5/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、全庁的に「こどもまんなか熊本」に取り組んでいくため、部局横断的な庁内プロジェクトチームを設置するとともに、結婚・子育ての当事者である若手職員の意見を子ども・子育て施策の充実に繋げるため、「こどもまんなか熊本応援団」を設置。</li> </ul> <p>(4) 第1回「こどもまんなか熊本」プロジェクトチーム会議開催(6/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の動きや各部局における取組状況、本県の課題やニーズ等についての情報共有を行うとともに、全庁的に関連する施策のパッケージ化や、県民アンケートの結果を踏まえた新規・拡充施策等を検討する方向性を確認。</li> </ul> <p>(5) 県民アンケートの実施(6/5~7/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者や子育て世代の実態を県内各地域別に把握することにより、県内の実情に合った効果的な政策を立案する際の基礎データとすることを目的とした県民アンケートを実施。約12,000件の回答あり。</li> </ul> <p>(6) 第2回「こどもまんなか熊本」プロジェクトチーム会議開催(9/11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全庁に照会した「こどもまんなか熊本」施策の取りまとめ結果を共有</li> </ul> <p>■熊本市</p> <p>(1) こども局の設置(4/1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもや子育て家庭の視点に立ったこども政策の立案と、すべてのこどもの健やかな育ちを支える施策の全庁的・総合的な牽引役を担う組織として「こども局」を新設</li> </ul> <p>(2) こどもホットライン開設(4/1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもの権利」に関する相談をこども本人や保護者、まわりの人からお受けする「こどもホットライン」を開設</li> </ul> <p>(3) こどもまんなか応援サポーター就任(7/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもを核としたまちづくりを更に推進するため、市長による「こどもまんなか応援サポーター」就任宣言</li> </ul> <p>(4) 「こどもまんなかアクション」の実施(適宜、実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもまんなかアクション」推進に向けた庁内への定期的な呼びかけ</li> <li>・「こどもまんなか宣言」の趣旨に沿った取組を全庁的に実施、発信</li> </ul> <p>※これまでの取組例</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①【エクス市交流都市締結10周年記念事業】トークイベント～子育てしたくなるまちづくり(5/30)</li> <li>②こどもまんなかプラネタリウム(6/8、6/10)</li> <li>③【SDGs連携事業】RE:WEARプロジェクト&amp;フードドライブ(7/19、7/20)</li> <li>④こども議会(8/4)</li> <li>⑤こども食堂現地ヒアリング(9~10月)</li> </ol> <p>(5) 「こどもまんなかアクション」事例発表(7/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども家庭庁「こどもまんなかアクションキックオフイベント」において「こどもまんなかプラネタリウム」の事例を発表</li> </ul>

議題(2) 半導体産業の集積に伴う環境保全対策等について

項目	現状(これまでの取組、課題等)
(2) 半導体産業の集積に伴う環境保全対策等について	<p><b>1 TSMCの熊本進出を踏まえた県・市の現状</b>                      台湾の半導体製造大手TSMC (JASM) の熊本進出が決定し、新工場建設が進行中。県では、受入れを円滑に進めるとともに更なる半導体産業の集積を図るため、令和3年11月に全庁横断組織「半導体産業集積強化推進本部」及びPTを立ち上げ、テーマごとに取組みを進めている。                      同様に、熊本市でも令和3年12月に「半導体関連産業集積推進本部」及びPTを立ち上げ、環境保全に取り組むとともに、戦略的な土地利用についても独自に取り組んでいる。                      このような県市相互の取組みの中、特に重要な共通の課題として以下の2点が挙げられる。</p> <p><b>2 課題</b></p> <p>(1) 工場排水による環境への影響に対する不安解消                      半導体関連企業から排出される工場排水について、公共用水域の環境に与える影響を懸念する声があり、県民・市民の不安解消に繋がる取組みが必要。</p> <p>(2) 企業集積に必要となる下水道施設の確保                      工場排水の増加に備え、既存下水処理施設の能力を確保するとともに、必要となる新たな施設の整備などが必要。</p> <p><b>3 現在の取組み状況</b></p> <p>(1) 工場排水による環境への影響に対する不安解消</p> <p>○関係法令に基づく基準遵守の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質汚濁防止法及び下水道法に基づき設備や使用物質を審査(県、菊陽町)</li> <li>・下水道法に基づく工場排水の監視の徹底(県、菊陽町)</li> <li>・水質汚濁防止法に基づく熊本北部浄化センターの処理水が流入する坪井川の水質監視の強化(熊本市) →坪井川の上流及び下流の2地点で健康項目(カドミウム等27項目)、PFOS・PFOAの水質調査を令和5年7月に実施(熊本市)</li> <li>・水質汚濁防止法に基づく熊本北部浄化センターへの立入検査実施(熊本市)</li> <li>・熊本北部浄化センターの水質検査結果の積極的公表(県)</li> </ul> <p>○規制外の化学物質等を対象とした環境モニタリングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規制対象外の18種類の金属類、250種の有機フッ素化合物、1万種を超えるその他化学物質等を対象とした環境モニタリング(工場稼働前後での変化を把握するもの)に着手(県、熊本市) →熊本市が採水、県が分析の役割分担の下、連携して対応</li> </ul> <p>○台湾訪問調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年8月に台湾のサイエンスパーク(新竹及び中部)周辺の環境状況について、地元行政機関が行ったモニタリング結果を確認し意見交換等を実施。その後、報告書を作成・公表(県)</li> </ul> <p>(2) 企業集積に必要となる排水環境の確保</p> <p>○必要となる施設検討のための立地企業情報の収集(県、関係市町)</p> <p>○排水量に応じた対策の検討(県、関係市町)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・処理場新設が必要となった場合に向けて、国に対して「特定公共下水道事業」の新規事業採択の緊急要望を実施                      →国土交通省の令和6年度概算要求概要に新規採択を再開する方針が掲載</li> </ul>

議題(3) 「世界津波の日」2024高校生サミットin熊本(仮称)について

項目	現状(これまでの取組、課題等)
<p>(3) 「世界津波の日」2024高校生サミットin熊本(仮称)について</p>	<p>国内外の高校生が一堂に集い、津波などの自然災害の脅威から命を守る対策を学ぶ、「世界津波の日」高校生サミット(以下「サミット」という。)を、2024年10月21日から24日の4日間、県、県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会の主催により開催する。</p> <p>併せて、内閣府等が主催する、国内最大級の防災イベント「防災推進国民大会」も、同時期に本県で開催される。</p> <p>サミットを成功させるためには、県と市がサミットの目指す姿を共有した上で、連携して推進する体制を構築し、「防災推進国民大会」との同時期開催による相乗効果を生み出し、サミットの成果の最大化を図る必要がある。</p> <p>1 サミットの見どころ</p> <p>熊本地震や令和2年7月豪雨災害という大災害を経験した本県には、大災害の記憶を風化させることなく、災害で得た経験や教訓を広く国内外に伝えていく責務がある。</p> <p>この機に、これまでの大災害の際に支援を頂いた国や地域を含め、国内外から高校生を招へいし、大災害の教訓や復旧・復興の姿を学んで頂き、熊本でしか体験できない機会を提供するなど目指す姿を明確にした上で、サミットを成功に導きたい。</p> <p>また、この貴重な国際交流の機会を、県内の多くの高校生が体験できるサミットにしていきたい。</p> <p>2 県・市の推進体制の構築</p> <p>現在、県と市、県と県教育委員会、市と市教育委員会など、それぞれで連絡を取り合い、情報や意見を交換するなどの方法で、準備を進めている。</p> <p>サミットを成功させるためには、県、県教育委員会、市、市教育委員会が一体となって推進体制を構築し、更に連携を深めていく必要がある。</p> <p>3 「防災推進国民大会」との連携</p> <p>「防災推進国民大会」は、既に2024年10月19日、20日に熊本で開催されることが決定。サミット関連行事は、同大会に続けて、10月21日、22日にスタディツアーを行い、10月23日、24日にサミットを開催する。</p> <p>国内最大規模の防災イベントと国際会議が同時期に開催されるメリットを最大限生かす必要がある。</p>